

<祈りのために>

「なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。」

(ヨハネによる福音書 12 章 6 節〔聖書協会共同訳〕)

福音書記者ヨハネは、この言葉をイスカリオテのユダの言葉として報告します。そして「彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心にかけていたからではない。自分が盗人であり、金入れを預かっていて、その中身をごまかしていたからである」と説明します。

けれども、それをもってユダが単なる横領犯であるとか、金目当ての裏切り者であるとするのは一面的に過ぎるでしょう。

ユダは「金入れを預かってい」たとあります。それはキリストと弟子たちとの会計担当だったということです。支援者たちからの献げものを受け、必要なもののために支出する「金庫番」としての働きをしていたのです。

ある団体を知るためには、その主張よりも、会計を見る方が早いと言われます。資金がどこから出て何のために使われているかを見れば、その団体の正体がわかるというのです。

美しい言葉で募金を集めながら、その少なくない部分が肩書きだけの役員の報酬に消えてしまう慈善団体は決して少なくありません。それどころか、募金そのものが名目に過ぎず、実際には教祖とその取り巻きのための金集めであるようなカルト集団さえ存在しているという現実を私たちは知っています。

その意味で、ユダはキリストが何を思い、何を実現しようとしているかを最もよく知る立場にありました。そしてユダは、キリストの思いが、ユダがそうであってほしいと考え、そうであるべきだと思っているものとは違っていることに気がついたのです。ユダにしてみれば裏切られたのは自分の方だったのです。

イスカリオテとは「カリオテの人」との意味ですが、それは当時、ローマ帝国に対する抵抗運動、武装蜂起を主唱する人々を意味していたとも言われます。だとすれば、ユダが「盗人であり」「中身をごまかしていた」というのも、来るべき日のための政治資金また軍事資金として、別会計にしていたということではなかったでしょうか。

だからこそ、300 デナリオンという労働者一年分の収入に匹敵する香油が、ユダにしてみれば無駄に費やされてしまったことが許せなかったのではないのでしょうか。それだけあればどれほどの武器が購入でき、どれだけの政治工作が行えるか、ユダは瞬時に計算したに違いないのです。

けれども、それはキリストのみ心ではありませんでした。ユダの言う「貧しい人々」には顔がありません。それはどこまでも抽象的な存在に過ぎず、ユダの夢想する独立戦争のための駒と背景にとどまってしまっています。

キリストは「いつもあなたがたと一緒にいる」貧しい人々について語られます。顔と名前を持ち、それぞれに痛みも悩みも苦しみも異なる、「もっとも小さな者の一人」に隣人として接し、キリストであるかのように奉仕することこそが求められていることなのです。

そのためには武器ではなく食べ物と水、宿と服、介護と訪問が必要とされます。それは愛の別名です。十把一絡げの政治的解決ではなく、まして軍事的な解決などではなく、一人一人に寄り添って共に歩む、仕える者としての歩みをキリストは求められるのです。

<祈り> 神様、あなたは、「仕えられるためではなく仕えるために」キリストを世におつかわしになりました。このキリストに従って歩む者たちとしてください。

芳賀 繁浩 (大会靖国神社問題特別委員会委員・豊島北教会牧師)

新シリーズ開始『その時に備えて 憲法問題 Q&A』を読む (11)

井上 豊 (広島長束教会牧師)

Q11 最近の憲法改正論議では、立憲主義はどのように扱われていますか？

A11 最近の憲法改正論議で問題なのは、改正を声高に主張する人たちが、憲法とは何かを知らないか、意図的に壊そうとしているのではないか、と思われることです。

かつて小泉純一郎首相の靖国神社参拝が批判されると、福田康夫官房長官は首相にも信仰の自由があると言いました (2001 年 11 月)。安倍晋三首相は、ニュース番組を批判したことが問題視されると、自分の考えを述べるのは原論の自由だと言いました (2015 年 3 月)。もちろん、首相個人にも自由はありますが、これらは首相としての言動が批判されたことに対する反論として出てきた言葉です。つまり、国民の信教やメディアの言論の自由を、権力者は脅かしてはならないという憲法を逆手にとって、権力者である自分の自由を主張したのです。これらは、権力者が立憲主義を理解していない典型例と言えます。

実際に改正草案ではどのようになっているのでしょうか、現行憲法の第 99 条と、改正草案の第 102 条 (条項が増えているため) を比べてみましょう。

「現行憲法」第 99 条

天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

「改正草案」第 102 条 (憲法尊重擁護義務)

- 1 全て国民は、この憲法を尊重しなければならない。
- 2 国会議員、国務大臣、裁判官その他の公務員は、この憲法を擁護する義務を負う。

「現行憲法」で、憲法尊重擁護義務者に国民が入っていないのは特筆すべきことです。ところが「改正草案」では、まず国民が憲法を尊重すべきだとなり、天皇の憲法擁護義務がなくなっています。先に、自民党の憲法「改正草案」の一番の特徴は、「個人のための国」から「国のための『人』」へと変わることだと記しましたが、この「改正草案」の基本的なトーンは、立憲主義についても顕著です。そうでありながら、自民党の「日本国憲法改正草案 Q&A」では、立憲主義を否定していないと主張しています。その上で、立憲主義は国民の義務規定を設けることを否定していないとして、「教育、勤労、納税」の義務規定を挙げます。しかし、教育の義務は子どもの教育を受ける権利を保障し、勤労の義務は国に勤労を強制されないが、働かない者の生活は保障されないことです。そして納税は、貢物ではなく国の運営費用を国民が負担することですから、これも国民に主権があることを表しています。これらの義務規定と憲法の尊重義務を横並びにしてしまうことは、立憲主義が何かを全く理解していない証拠と言えるでしょう。

また、「日本国憲法改正草案 Q&A」では、イタリア憲法やドイツ基本法にも憲法擁護義務があると主張します。ただこれらは、いずれも「兵役義務」の脈絡に置かれているものです。すると、これが憲法改正の目的なのでしょう。

新 Q11-1 立憲主義を理解していない権力者が憲法「改正」をすると立憲主義はどうなってしまいますか？

新 A11-1 「今日の立憲主義とは、政治権力が恣意的な支配を行わないよう、憲法によって権力を制限・抑制するという考え方です。(その時に備えて 憲法問題 Q&A (9))」しかし、これは日本では根付いていませんでした。明治時代において立憲主義は天皇制と矛盾してしまうので、天皇がつくった憲法の下で、民衆の声も聞いてあげるよ、という話にすりかえられてしまったのです。戦後もその影響は続いており、この上、憲法が「改正」された場合は

明治憲法への逆戻りで、立憲主義は政治権力が国民を縛るものへと変質してしまいます。

新 Q11-2 「改正草案」第 102 条で天皇に憲法擁護義務がないことにはどういう意味がありますか？

新 A11-2 天皇は憲法の上に立つ存在だという、まさに明治憲法の「天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス」につながる考え方だと思います。これでは、かりに天皇の名によって新たな戦争が始まり、それがおぞましい戦争犯罪を生んだとしても、天皇は「君主無答責」で法的に罪を問われることはありません。改憲論者はそのことまで想定して、手を打ったのでしょうか。

武器ではなく、命の水をおくる - 中村哲医師の生き方に学ぶ -

糸広国（函館相生教会牧師、大会靖国神社問題特別委員会書記）

現在タリバン政権の統治下にあるアフガニスタンは貧しい国で、生活のために戦争する集団に入ってお金を稼ぐ若者が後を絶たない状態でした。最初は、パキスタンのペシャワールで医療活動に従事していた中村哲医師は、アフガニスタンからの避難者の要請に応じてアフガニスタンに行き、医療活動を始めたのです。この国の最大の苦難は干ばつによる飢饉です。それが貧困と戦争と病気の原因となっていました。中村医師はアフガニスタンの人々に必要な喫緊の課題は食料にあると考え、農地を造る事業を自ら始めました。アフガニスタンは元々農業国でしたが、人々は自給自足の生活を余儀なくされていました。9・11のアメリカ同時多発テロ事件の報復で、アフガニスタンはアメリカ軍の空爆の標的になり、多くの難民が生じて、国土荒廃に拍車がかかったのです。苦難と危険の中で中村哲医師は現地の人々と共にクナル河流域に用水路を造り灌漑事業を進めました。アフガニスタンは部族のまとまりを重んじる社会で、用水路を引くにも、各部族の土地を提供してもらわなければなりません。中村哲医師は、用水路を造ることで豊かな農作地ができ、収穫する作物で人々の食糧を自給し、住民皆が飢餓から救われることを粘り強く現地の族長や住民に説明し、信頼を得て行ったのです。中村哲医師自ら重機を操作してクナル河に堰を造る様子がテレビでも放映されましたが、用水路を掘り、河岸に木を植えて補強する工事を現地の人々はつるはしとスコップで成し遂げたのです。

中村哲医師は工事・作業の指示をするだけでなく、自ら土を掘り、石を担ぎ現地の人々と共に汗を流す人でした。彼は灌漑事業を支援するペシャワール会の会報に「平和は軍事力で達成できないことを私たちは見てきた。砂漠からよみがえった緑の大地に立つとき、文字通り地についての平和な感情に支配される。そして、この実感は座して得られたものではなく、命の尊さを共有しようとする努力の結実であることを知る」という言葉を寄せています。

中村哲医師のアフガニスタンでの苦闘は30年にも及びますが、食べることこそが平和をつくるという堅い信念をもって、砂漠を緑地化して農地にしていきました。中村哲医師は中学時代にキリスト教に出会い、盲目の牧師から洗礼を受けましたが、九州大学の医学部を出たあと海外の医療支援活動を経験し、遂にはアフガニスタンの人々の命を守り、育む事業に献身しました。彼の生き方は自分のためではなく、他者のために生きるもので、洗礼を受けた牧師の生き方に影響を受けたようです。また彼の祖父は九州の炭鉱で朝鮮人労働者や貧しい炭鉱夫を束ね、家族同様に差別なく面倒を見、弱者の立場に立ち、体を張って炭鉱会社と交渉した人でした。中村哲医師の揺るがない信念や行動には、そうした家庭環境や信仰が背景にあるものと思われます。

2019年12月4日朝、中村哲医師は車で移動中、何者かによって銃撃されて亡くなりました。葬儀は12月11日福岡市で行われ、駐日アフガニスタン大使も参列して弔辞を述べました。銃撃事件がなければ、12月に函館市に来て講演をする予定でしたが突如その機会を奪われ関係者は深い悲しみに覆われました。以後、コロナ禍の中断を経て、函館市民は毎年12月に中村哲医師の志を絶やさないために関係者を招いてペシャワール会主催の講演会を行い、灌漑事業の継続を支援しています。「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイ5:9）。私たちも改革教会の信仰に立って、広い視野と神の国を遥かに望み見る信仰をもって、地球規模の世界的な課題に取り組む姿勢が必要なのではないのでしょうか。

<ヤスクニ問題関連ニュース>

○核廃絶 気運高めるカギは

「アバター」(09年)などで知られるキャメロン監督は09年に長崎を訪れ、広島と長崎の両方で被ばくした故・山口彊(つよし)さんと面会し、原爆を題材とした映画を作ると明かした。リーパーさん(元広島平和文化センター理事長)は最近、原爆投下をめぐる著作があり監督と親しい米国人作家から「監督が原爆の映画をそろそろ作り始める」と聞いたという。

「いまのCG技術はすごく、核戦争で人間が完全に滅びてしまうことをみせれば、協力しかないと思うかも知れない。映画は、(核廃絶の)キャンペーンの中心になる可能性がある」。

リーパーさんは言う。「僕の印象では、日本でも米国でも若い人のほうが『地球市民』という意識を持っている。あらゆる運動は、人の痛み、そこから出る怒りが元になる。映画が大ヒットするなどのきっかけさえあれば、みんなが核兵器はいらないと深く考えるようになり、大きな運動になる可能性があります」。(朝日新聞 2023.2.18)

○はだしのゲン 平和教材差し替え

広島市立の小中高校で使われている平和教育の教材改訂めぐり、県原爆被害者団体協議会(佐久間邦彦理事長)や原水爆禁止県協議会、前広島教職員組合など6団体が21日、市教育委員会に、漫画(はだしのゲン)を別の内容に差し替えるのを撤回するよう要請した。

要請文では、作品が平和教育に果たしてきた役割は多大ですぐれた教材と訴える。市教委が「被爆の実態に迫りにくい」「生活実態に合わない」などとして、内容を差し替えることに対し、「納得できるものではなく、取り上げ方や場面、取り上げる学年を変えれば十分対応できる」と指摘し、今後も活用するよう再検討を求めている。

県被団協の佐久間理事長は「私も被爆者ながらゲンから学んだ。削除決定は我慢がならない」と話した。22日にはもう一つの県被団協(箕牧智之理事長)も市教委に経緯の説明などを求めて申し入れをする。(朝日新聞 2023.2.22)

○麻生氏にミャンマー国軍から勲章

クーデターで権力を握ったミャンマー国軍が20日、自民党の麻生太郎副総裁と元郵政相の渡辺秀央・日本ミャンマー協会会長に名誉称号と勲章を贈った。21日付の国営紙が報じた。

国営紙によると、20日にネピドーで開かれた授与式に麻生氏は欠席。渡辺氏が代理で受け取った。渡辺氏は生涯を通じ、ミャンマーの発展と国軍の地位向上に努力すると誓った。(朝日新聞 2023.2.23)

○「国民の苦難を顧みない日和見主義者として歴史に残る」

ミャンマーの人権団体によると、クーデター後の国軍の弾圧で死亡した人は3000人を超え、拘束された人は約2万人に上る。

ミャンマー出身のナンミャケーカイン京都精華大特任准教授は「蛮行に走る国軍が与えた称号に名誉などあると思うか。両氏はミャンマーで(第2次世界大戦のミャンマー占領時の首相)東条英機と肩を並べて伝えられていくだろう」と非難する。

クーデター前、与党「国民民主連盟(NLD)」政権下で経済開発を担当し、渡辺氏とも交流したチョーワンナ氏は「彼は両国の友好関係を壊した。ミャンマー国民の苦難を顧みない日和見主義者として歴史に残るのは間違いない」と切り捨てる。

民主派が作った「挙国一致政府(NUG)」のチョーゾー大統領府報道官は「戦争犯罪と人道に対する罪をはたらいた犯罪者」とミンアウンフライン氏を糾弾。「ミャンマー人は日本に対し、ロシア軍へのウクライナ人の抵抗を支援するように、国軍への抵抗を支援するように望んでいる」と訴え、「血まみれの勲章」を拒むように求めた。(東京新聞 2023.2.25)

818号ヤスクニ通信 2023年3月12日 発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会 発行人・編集・発行 小塩海平(東京告白教会)

<編集後記> 5月19日からG7広島サミットが開かれます。広島出身の首相が、どこまで反核の発信ができるかが注視されます。今回のニュースは、主として広島井上豊牧師の選によりました。K.K.